

漁家体験シリーズ ~食文化の伝承~ 第1回へしこ作り

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
50	27	27	22 (福井1・滋賀4・京都4・奈良8・兵庫3・愛知2)

2. 事業内容 (概要)

◆ねらい

- ・若狭地方の伝統的スローフードを通して食文化についての理解を深めるとともに、漁家の生活を体験し、交流を図る。
- ・地元ならではの食文化の大切さを発進してきながら、他施設との連携を図るとともに合同事業としての事業展開を想定したプログラムの企画・運営のノウハウを伝達をする。

◆期日・期間

2011年4月16日 (土) ~ 2011年4月17日 (日) 1泊2日

◆後援・協力団体

○後援：福井・岐阜・愛知・滋賀・京都各府県教育委員会 ○協力：田鳥区漁家

◆参加者分析

- ・参加者の多くが、大人の家族およびグループでの申し込みである。
- ・キャンセルした参加予定者の多くは、時期的な問題もあるのか、児童・生徒を持つ家族にとって、学校行事や地域行事とのブッキングし参加できなかったりした。
- ・上記の参加者の多くが昨年度までの「へしこ」「なれすし」両教育事業に、数回参加しているリピーターが多いのも特徴である。

◆企画のポイント

◇プログラム

	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
四月十六日 (土)	受付	はじまりのつどい	「へしこ」の話 食文化探訪	へしこ樽小屋見学	（魚さばき、 塩漬け） へしこ作り①	ゆったりタイム① 磯観察 魚釣り（田鳥漁港） 若狭湾クルージング 夕食づくり ※選択活動です	夕食	者との交流 漁家と参加	自入由浴	就寝
	7	8	9	10	11	12	13	14		
四月十七日 (日)	起床・洗面	朝食	（ぬか漬け） へしこ作り	おわりのつどい	ゆったりタイム② 魚釣り (阿納ブルーパーク) 若狭湾クルージング (自然の家)					

◇「へしこづくり」講師

田鳥区漁家

森下佐彦 氏

○事業実施の必要性

ファーストフードの普及により手軽で便利な食事が出来るようになったが、そこには、家庭の味や地産地消、手間暇かけて作るという大切な視点が見失われてきた。「飽食」「孤食」に代表されるような問題が起こっており、「食に関する教育」の必要性が様々な分野で

呼ばれている。そんな中、食の世界遺産にも指定された地域の伝統的な食文化である「鯖のへしこ」や「鯖のなれずし」作りのように、自分でスローフードを作り食する体験が現在の青少年には特に必要である。また、様々な人との出会いを通して、異文化に触れながら地域間交流、世代間交流を図ることでより豊かな人間関係を作ることができると考える。

○事業の特色

この事業の特色は漁家の生活を体験しながら、若狭地方の伝統的な鯖のへしこ作りを通して、食文化についての理解を深めることにある。漁家の方に魚料理についての指導を受け、自分で手間暇かけて料理を作り食する体験をする。そして、自分たちと違う文化に触れると共に漁家や参加者の交流を図る。また、地元の漁師さんの話を聞き、地域の伝統的な食文化への一層の理解を深めるようにしている。

○今年度の位置づけ

地域の特徴でもある漁家とその食文化を活かした事業として企画・実施してきた。内容としては鯖のへしこ作りと漁家の方々との交流であった。また今年度は昨年度に引き続き、第一日目の午後に、自然豊かな地元の漁港および海岸での選択活動を入れ、より内容を充実させていく。また、一夜干し作り体験で、へしこ作りで習得した魚をさばく技術を再度利用して一夜干しを作ることで、自らの食に対する意識の向上を図りたいと考える。

食育と健康に関する知識を参加者に理解してもらうために、地元の漁師さんから鯖のへしこを食べることで日頃感じておられることやへしこ・なれずしの健康に対する効果などについて講話ををしていただく。その後実際にへしこ作りに挑戦してもらうことで、知識と体験の融合を図る。

- ・漁家の生活を体験しながら、若狭地方の伝統的な鯖のへしこ作りを通して、食文化についての理解を深め、漁家の方に魚料理についての指導を受けながら自分で手間暇かけて料理を作り食する体験をする。
- ・自分たちと違う文化に触れると共に漁家や参加者の交流を図る。また、地元の漁師さんの話を聞き、地域の伝統的な食文化への一層の理解を深められるようにする。

○期待される成果

- ・若狭地方の食文化への理解と、食を大切にしようとする心が育まれる。
- ・魚料理への理解と意欲が育まれる。また、魚さばきがうまくなる。
- ・漁家の人々との交流と参加家族同士の交流が深められる。
- ・食育と健康への関心を高め、自分の健康について食生活から見直す。

○広報のポイント

一昨年度から、前年度末のファミリー事業参加者や近隣の公民館・社会教育施設にチラシを配布してきた。その結果、広くこの事業の知名度が高くなってきた。

◆運営のポイント

本事業は、地元小浜市田鳥区の観光組合・民宿漁家と協力しながら実施している。そのため、漁家民宿の代表の方との連絡を密に取った。

事業が始まるとすぐに各漁家へ参加者が分宿することになるため、各漁家と参加者がうまくコミュニケーションがとれるように、職員・スタッフを適切に配置した。

◆安全管理のポイント

- ・各漁家で魚をさばく時には、刃物を使うため、十分に注意が必要であることやさばき方のこつなどを漁師さんからじっくりと教えていただきながら実施するようにした。
- ・「ゆったりタイム」田鳥海岸および漁港での選択活動においては、各活動にスタッフ（職員及びボランティア）を配置し活動の様子を監視できる体制をとった。
- ・2日目の選択活動では、活動場所が分かれるために、各活動場にスタッフを配置した。中

■普及啓発事業■

でも自然の家の活動で、若狭クルージングを行ったこともあり、スタッフ以外の職員にも応援を要請し行った。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者（子ども）	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	67%	33%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	83%	17%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	33%	67%	0%	0%

4満足 3やや満足 2やや不満 1不満

参加者（大人）	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	100%	0%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	100%	0%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	100%	0%	0%	0%

4満足 3やや満足 2やや不満 1不満

(2) 参加者の声

（子ども）

- ・おもしろかった。
- ・へしこがからかった
- ・昨年同様、なまこが捕れて良かった。
- ・四つ葉のクローバーがたくさんあった。

（大人）

- ・事前にスケジュールを明確にしてあったので良かった。
- ・貴重な体験ができたので、今後も永く続けていって欲しい。
- ・何度も参加して申し訳ありません。でも、楽しみにしています。佐助さんのご主人、奥さま、お世話になりました。年2回、故郷に帰ってきたような気がしています。
- ・子ども達にとっても良い経験になりました。ありがとうございました。
- ・小浜の漁家の方々とのふれあいもあり、参加された人たちともお話がたりと、とても楽しい日々を過ごせて、本当によかったです。
- ・漁家の方々の漁師料理を食べたり、ふれあいがてきてとても良かったです。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・各漁家において鯖のさばきを体験することで、家族間の会話が弾んだり、親が子を指導したりするなど、家族内での親睦が図れ家族関係の構築につながった。
- ・連続して参加している方も多く、漁家での生活や体験活動に大変興味を持って参加してくださっている。また、そこからの紹介での参加者も見られた。
- ・漁師体験・浜辺の活動の選択活動を取り入れることで、より漁家の生活に近い体験を提供することができた。（天候が悪く、寒かったという意見もあったが、選択活動を行ったことはよかったです。また、宿泊漁家にてゆっくりされた方々もあり、ゆっくりとした時間だったと好評だった。）
- ・昨年同様、今年度も自然の家の活動を取り入れた。昨年の反省を活かし、移動や時間的な余裕など課題を考慮して、ゆっくりと時間を過ごして頂くようなプログラムを提供し、参加者からは大変好評であった。
- ・今年度は、近隣施設との連携を図り協力しながら事業展開をするねらいもあったので、今回は、福井県立三方青年の家へ協力依頼を行った。当日、所長および職員の方が視察に来てくださった。三方青年の家所長からも「うちの施設でもやってみたい」という感想をいただけた。今後ますます協力体制が図られていき、本事業が将来的には他施設での事業展開ができるようになると良い。

■普及啓発事業■

(2) 課題

- ・伝統的スローフードについて実際にへしこを作り、体験的には十分成果は上がっていると思われるが、食文化への理解の深まりが不十分であった。（私自身の準備不足である）
へしこを使った料理などへの発展的活動につなげられると良かったのではないか。（選択活動に準備することができれば良かった。おばま食文化館などとの連携が図れたのではないか。）
- ・漁家の割り当てについて、大人を中心とした家族および団体同士の交流はできるものの、子ども同士の交流についてもう少し配慮できると良かったのではないか。佐助さんとの細かな打ち合わせが必要。
- ・来年にむけて、近隣施設（本年は県立三方青年の家との連携だけであった）との連携について、さらに密な情報交換を行いながら、本事業だけでなく、本施設の様々な事業での連携を図っていくと良い。

5. 活動の様子



【開講式：増川所長】



【講師の話】



【へしこの樽小屋見学】



【さばのさばき】



【樽付け】



【磯観察】



【取材：小浜チャンネル】



【他施設視察：県立三方青年の家】



【磯釣り体験】



【若狭湾クルージング】



【閉講式：田烏観光協会長 & 山下次長】

